

生体を利用した実習における動物の取り扱いに関する方針

岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科
鳥取大学農学部共同獣医学科

岐阜大学応用生物科学部および鳥取大学農学部共同獣医学科（以下、両学科）では、獣医師を養成する過程で動物の生体を用いた実習を行うことがあります。その場合は、3R（Replacement, Reduction, Refinement）および5F（Freedom）の精神を遵守するとともに、適正に実習が実施されるために、両大学にそれぞれ設置されている動物実験委員会（以下、同委員会）で承認された実施計画であること、実施後は同委員会で実施報告書を精査し、その内容が承認されることを確認しております。また、実施計画の内容ならびに使用する動物の飼育管理全般については、両大学にそれぞれ制定されている規程

「岐阜大学動物実験取扱規程」(<https://www.thers.ac.jp/disclosure/rules/index.html>)、
並びに「鳥取大学動物実験規則」

(https://www.tottori-u.ac.jp/kouhou/kisokusyuu/reiki_honbun/u095RG00000581.html)
に違反しないことを条件としております。また、3Rの精神に基づき、動画視聴、生体反応のシミュレーション解析、模擬皮膚・模擬骨・模擬生殖器等のシミュレーターの利用など、代替法による実習を一部の科目で実施しています。

なお、両学科で実施する生体を用いた実習は、以下に記載する教育方針に基づき、学生に対して必要な講義、演習ならびに実習を通じて、適切な倫理観と動物福祉の理念を備えた獣医師の育成に務めております。

【教育方針ならびに教育効果】

両学科における獣医師養成のカリキュラムは、いわゆる座学である講義による専門知識の教授に加え、実技を通して修得する演習や実習で構成されています。動物を扱う専門職種である獣医師には、生体に触れることで会得する多くの知識と技術が要求されます。このため、両学科では、カリキュラムの一部において動物の生体を用いた演習や実習を実施しています。

生体を扱う実習においては、動物福祉ならびに動物愛護の精神に則り、動物の生命を扱う獣医師に恥じない倫理観と使命感を備えた人材の育成を目指し、それらの実習を経て真に社会に貢献し得る獣医師を輩出することを目的としております。

【動物福祉に関する教育】

両学科に入学した学生は、以下の必修科目を通じて実験動物を含む動物全般の福祉に配慮する人材を育成するとともに、獣医師としての倫理観の醸成を図ります。

両学科で共通して履修する科目：

「獣医学概論」(1年次前期、1単位)：獣医療において配慮すべき福祉の観点を概説する。

「獣医倫理・動物福祉学」(4年次後期、1単位)：飼育動物を対象とした獣医療における倫理および福祉に関する応用面を概説する。

「教養基礎演習」(1年次後期、1単位)：一般教養科目である本科目において、動物の福祉に関する入門的事項を教授する。

【実験動物に関する倫理教育】

本学科に入学した学生は、以下の必修科目を通じて実験動物倫理について十分に理解するとともに、必要な手技を修得し、併せて動物愛護の精神の醸成を図ります。

両学科で共通して履修する科目：

「実験動物学」(2年次前期、2単位)：専門教育科目である本科目において、生体を用いた実験・実習における倫理的事項、関連法規および学内規則を教授する。

「実験動物学実習」(2年次後期、1単位)：専門教育科目である本科目において、実験動物の取り扱いに関する各種手技を修得する。

「教養基礎演習」(1年次後期、1単位)：一般教養科目である本科目において、生体を用いた実験・実習における心構えや関連規定に関する入門的事項を教授する。

大学ごとに個別に履修する科目：

【鳥取大学】「大学入門ゼミ」(1年次前期、2単位)：一般教養科目である本科目において、生体を用いた実験・実習における倫理的事項を教授する。

【代替法を取り入れている科目】

【岐阜大学】

「獣医毒性学実習」、「小動物内科学実習」、「獣医画像診断学実習」、「臨床繁殖学実習」

【鳥取大学】

「生理学実習」、「獣医薬理学実習」、「臨床繁殖学実習Ⅰ」、「小動物外科学実習」

以上